

# 東雲夢通信

東雲中学校校長室通信

文責 校長 渡邊 和彦

平成三十年十一月二六日発行第十三号

## 命について

十一日に「市内一斉の避難訓練」、十五日に谷口先生の「いのちの学習講演会」十六日に「虹リボン」乳幼児ふれあい体験」があり、同じく十六日に「人形劇団つくしんぼ」の人形劇を観劇しました。それぞれ対象学年は違うのですが、毎年の恒例行事なので、学年がすすむにつれ、追々、体験することになります。

考えてみるとどれも命に関わるプログラムでした。天災、人災の危機からどうやって自他の命を守るか：生まれてきた地球に一つの命を、どうやって大切に育むか：命の発生、男女の出会い、性徴、男とは、女とは：母親となつた後に、地域の中で、地域の子どもを、地域でどうやって、慈しみ、育てるか：それぞれプログラムの汗や涙や、苦勞の歴史が感じられたのです。生徒の皆さんにとつて、大事なことは「この先生は何を私たちに訴えたいのだらう」「なぜ、何を目的に、この活動は続いてきたのだらう」と考えてみることはではないでしょうか。

正直に言うと、僕はあんまり赤ん坊

も、犬猫の動物も、花や木の植物も好きではありませんでした。(※学校の先生なのにながかりでしょ?) だけど、いざ自分が、赤ん坊の父親になつたり、犬の飼い主になつたり、小さいけれど庭を持ち、花や植物を植えると、全く違う感情が生まれるのです。

毎日次から次に順番に、四人の娘達のことを心配します。教え子に近々、赤ん坊が生まれると聞くと、「まだかな? 無事かな?」と数時間おきに心配します。もろつたり保護した犬ですが、二匹の物言わぬ愛犬のために、最高の環境を整えるのです。いつか来る別れを想像すると、涙が出てきます。

命ある物にはもれなく、命がけでその命を産み出し、育んだ命があります。私たちがたとえ他人であっても、命と愛の繋がりを想像する力も、持たなければなりません。

← 谷口先生



← 虹リボン



← つくしんぼ



← 私の愛犬



## 何でそんな事を覚えているのか

肝心なことはなかなか頭に記憶できません。なのにどうでも良いことをたくさん覚えていきます。授業中、「大隈重信」を「たいわいしげのぶ」と読んだ友だち。英語で「LINCOLN」を「リンコリン」と発音した友だち※リンカーン「CHEVROLET」を「チボレット」と発音した友人※「シボレー」

今日の給食は何だったの? と聞かれて「シチョウ」と答えた私の長女。※シチュ「ひさおおもとせん」と「久大本線」の事を大胆に読み間違えた私の三女は現在、JR九州の車掌として鹿児島本線、日豊本線に乗務しております。